

## 大河原町のマコモ植栽作戦

平野 隆

大河原町白鳥を守る会, 989-1201 柴田郡大河原町大谷字原前20, 会長 高橋守

### はじめに

大河原町は、宮城県南部地方(仙南地域)のちょうど真ん中に位置する面積25km<sup>2</sup>、人口22,000あまりの町です。町内を二分するように白石川(一級河川阿武隈川水系)が流れおり、宮城県南部ではよく知られたハクチョウ渡来地です。大河原町の白石川にも冬には500羽をこすハクチョウ(大部分がコハクチョウ)が飛来します。

ハクチョウは、昭和40年代にはしばしば姿を現す程度でしたが、昭和58(1983)年頃からは毎年飛来するようになりました。昭和62(1987)年には餌付けに成功し、「大河原白鳥を守る会(以下守る会)」を設立しました。

### マコモ植栽計画

守る会では、ハクチョウ飛来期間中、自然の餌不足を補うための餌付け(くず米、くず麦、しいな、古米、パン)を行っています。また、平成3(1991)年には日本白鳥の会に加入し、全国の白鳥を愛する仲間と交流しています。

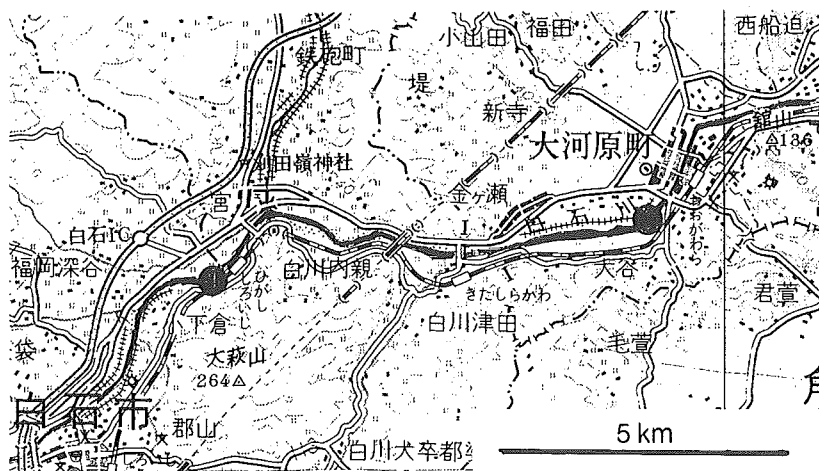


図1. マコモ植栽位置図。●は植栽地を示し、右が大河原町の植栽地。

OGAWARAMACHI HAKUCHO-O-MAMORUKAI, Planting of *Zizania* for swans in Ogawaramachi, Miyagi Prefecture.

全国の間との交流を通して、「ハクチョウや自然環境のことを考えると、はたしてこのまま餌付けを続けてもいいのだろうか？、マコモなど自然の餌を確保することが大切なのではないか？」という考えに至りました。しかし、流れのある川にマコモを植えることは、容易ではありません。

どうしたものかと悩んでいましたら、平成9(1997)年の秋に宮城県大河原土木事務所からハクチョウ渡来地に隣接した土地に田んぼを造成し、伊豆沼からブロックごとマコモを移送して植栽したい、管理は守る会にお願いしたい、との提案がありました。

土地の古老の話によると、マコモはかつて白石川に自生していたということです。それが、川砂採取、水質悪化、コンクリート護岸などにより徐々に姿を消し、今ではほとんど消滅してしまいました。このような状況のなかで、土木事務所としてはマコモの水質浄化作用に着目し、マコモを植付けることで工場排水や生活雑排水を浄化し、さらにハクチョウの自然の餌を確保するという提案でした。守る会や大河原町は、この提案を快諾し、マコモ植栽計画の成功に向けて取り組んでいくことになりました。

なお、この計画は平成10年度から3か年の継続事業で、白石川では大河原町中川原地区(白石川左岸、平成9～12年度)と蔵王町松ヶ丘地区(白石川左岸、平成9～10年度)の2か所にマコモの株を植付けるというものです。計画では、大河原町には面積2,700m<sup>2</sup>に約3,600株のマコモを植えるというものです。この計画を立てるにあたっては、平成9(1997)年12月に伊豆沼・内沼環境保全財団の柴崎先生、守る会、大河原土木事務所が共同で現地調査を行いました。その後も柴崎先生には何回か現地に足を運んでいただき、指導していただくとともに、入念な打合せを行いました。

### マコモ植栽は大成功、しかし・・・

マコモの植栽は、緑の少年団活動やもがり祭(児童たちによる植えた作物の収穫祭)の実施など、自然に親しむ教育に熱心に取り組んでいる大河原町立大河原南小学校にお願いしました(小学校では、「創意の授業」として参加)。平成10(1998)年5月21日、伊豆沼より4トントラック6台、約1,200株のマコモを移送、約900m<sup>2</sup>の田んぼの周りにブロックのマコモを置いて準備完了です。

翌22日、快晴の天気のもと、大河原南小学校の5・6年生児童と先生合わせて152人を含む関係者約190人でマコモの植栽が行なわれました。最初は戸惑っていたようですが、すぐに慣れ、もう大はしゃぎでした。植付けは20～30分で終わりました。

その後、マコモは順調に育ち、初夏には2mを越すほどまでになりました。しかし、秋の長雨による増水で2～3日間マコモ田が水を被ってしまいました。水がひいても、砂をたいふ被っており、守る会はじめ関係者一同がっかりしましたが、ハ

クチョウが飛来してみると、砂を被っていないわずかばかりのマコモを食べているではありませんか！

### 平成11年度のマコモ田の様子と今後の問題点

平成11(1999)年度のマコモの植栽は、5月21日に昨年と同じく大河原南小学校の協力を得て実施されました。この年も、秋の長雨による増水でマコモ田は前面に砂を被ってしまいましたが、ハクチョウの飛来前に砂を除去し、冬の渇水対策として川からポンプで水をくみ上げた結果、マコモ田は常に水を湛え、十数羽のオオハクチョ

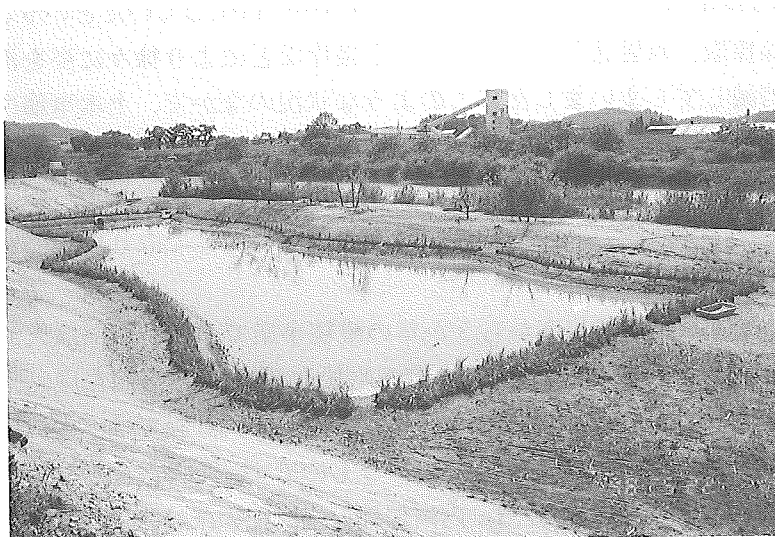


図2. 植栽前の水を張った田んぼ.



図3. 田んぼでブロック状になったマコモを植栽する大河原南小学校の児童.

ウが入りました。

今年もマコモ田造成と南小学校の児童による植栽が行なわれます。しかし、今年が最後の事業年度で、これからマコモの管理・栽培は守る会が主体となって行わなければなりません。また、マコモ田造成の際いヨシを刈ったり、ヤナギの木を切ったりと周囲の景観を相当壊したために、ハクチョウ飛来地には全体で多いときでも約100羽しか来なくなりました。これらの問題解決のため、県や町と一緒に取り組み、たくさんのハクチョウがマコモ田に入ることを願っております。



図4. 植栽終了後のマコモ田.



図5. マコモ田で採餌するオオハクチョウ.